

事 務 連 絡
令和4年5月11日

各都道府県教育委員会指導事務主管課
各指定都市教育委員会指導事務主管課
各都道府県私立学校事務主管課
附属学校を置く各国公立大学法人附属学校事務担当課

御中

文部科学省初等中等教育局教育課程課

持続可能な開発目標（SDGs）副教材
「私たちがつくる持続可能な世界～SDGs をナビにして～」の配布について

この度、外務省から、別添事務連絡のとおり、持続可能な開発目標（SDGs）を学ぶための副教材「私たちがつくる持続可能な世界～SDGs をナビにして～」を全国の中学校等（義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。以下同じ。）へ、第3学年の生徒数分を配布する旨の連絡がありました。

については、本教材等の配布について御了知の上、各都道府県教育委員会指導事務主管課におかれては、指定都市を除く域内の中学校等を設置する市町村教育委員会及び所管の中学校等に対し、各指定都市教育委員会指導事務主管課におかれては、所管の中学校等に対し、各都道府県私立学校事務主管課におかれては、所轄の中学校等及び中学校等を設置する学校法人に対し、附属学校を置く国公立大学法人附属学校事務担当課におかれては、附属の中学校等に対し、このことについて周知を図るなど、御協力をお願いします。

本教材等については、5月17日以降に外務省及び公益財団法人日本ユニセフ協会から各中学校等に直接配布される予定ですので、その内容については、公益財団法人日本ユニセフ協会学校事業部（SDGs 副教材事務局）にお問い合わせいただきますようお願いいたします。また、本教材の活用方法については各学校で適宜ご判断いただいて構わないものであることを申し添えます。

なお、本教材については、外務省ホームページ
(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>) からダウンロードが可能とのことですので、併せて連絡いたします。

（本件担当）

文部科学省初等中等教育局教育課程課教育課程総括係
TEL：03－5253－4111（内線：2073）

事 務 連 絡
令和4年4月26日

文部科学省初等中等教育局教育課程課 御中

外務省国際協力局地球規模課題総括課

持続可能な開発目標（SDGs）副教材
「私たちがつくる持続可能な世界～SDGs をナビにして～」
の配布について

教育分野における持続可能な開発目標（SDGs）の推進につきまして、日頃から特段の御配慮をいただき厚く御礼申し上げます。

さて、外務省では、貴課にも多大なる御協力いただき、主に中学校社会科（公民的分野）において活用可能な、SDGs を学ぶための副教材を作成しました。本年度も中学校第3学年を対象として、令和4年5月から全国の中学校（義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。以下同じ。）に配布することとしましたので、貴課から教育委員会及び中学校等の関係機関への周知につき、特段の御配慮をいただきますようお願いいたします。

各中学校への副教材の送付時期については、令和4年5月17日以降を予定しております。なお、平成29年度に告示された新しい中学校学習指導要領において、「国際連合における持続可能な開発のための取組」について記載されたほか、幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の教育課程の基本的考え方においても、子供たちが持続可能な社会の創り手となることが期待される旨が示されたことを踏まえ、教育委員会等の関係機関に対しても、外務省ホームページ

(<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>) から本教材を御覧いただくことが可能である旨、併せて周知していただきますよう、特段の御配慮をお願いいたします。

本件担当：小谷慶子
外務省国際協力局地球規模課題総括課
Tel：03-5501-8246（直通）
Fax：03-5501-8452

令和 4 年 5 月

各中学校
学校長 様
3 年生社会科担当教諭 様

外務省国際協力局地球規模課題総括課
公益財団法人 日本ユニセフ協会

持続可能な開発目標(SDGs)副教材
『私たちがつくる持続可能な世界～SDGs をナビにして～』
送付のご案内(3 年生生徒数)

拝啓 若葉の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

2015 年、国連において「持続可能な開発目標(SDGs)」が採択され、日本政府も目標の達成に向け、実施指針を策定いたしました。この実施指針では、学校教育における SDGs 学習等を通じ、持続可能な社会の創り手となるために必要な資質・能力の育成を掲げております。また、子どもたちに SDGs を持続可能な未来への道標として知らせていこうという動きは、世界的にも高まっております。

外務省および日本ユニセフ協会は、文部科学省の協力のもと、主に中学校社会科(公民的分野)において活用可能な、SDGs を学ぶための副教材を制作いたしました。令和 4 年度の中学 3 年生を対象に配布いたしますので、貴校でのご活用をお願いいたします。

送付部数につきましては、自治体や学校総覧で公表されている各校の人数をもとに、一定の予備を含めてお送りしておりますが、不足の際は、以下事務局へご連絡ください。

また、日本ユニセフ協会が本副教材専用のポータルサイトや、SDGs 学習サイト(SDGs CLUB)を開設しています。調べ学習や関連映像の視聴等にご活用ください。

この教材が、生徒の皆さんの未来への視野を広げ、様々な社会課題を自らの課題ととらえ、主体的、対話的な深い学びの一助となるよう願っております。

皆様のあたたかいお力添えを、よろしくお願い申し上げます。

敬具

追伸：今後の教材改善のため、授業実施後の忌憚のない感想やご意見等を同封のアンケートにて事務局までお寄せくださいますようお願いいたします。(アンケートは任意です)。

お問い合わせ：(公財)日本ユニセフ協会 学校事業部 (SDGs 副教材事務局)

TEL: 03-5789-2014 FAX: 03-5789-2034 E メール: se-jcu@unicef.or.jp



私たちがつくる 持続可能な世界

SDGsをナビにして



2030年 —

社会の主役となっている君たちのミッション

貧困、紛争、感染症、気候変動、資源の枯渇…

人類は、これまでになかったような数多くの課題に直面している。このままでは、人類が安定してこの世界で暮らし続けることができなくなってしまうと言われている。そんな危機感から、世界中の様々な立場の人々が話し合い、課題を整理し、解決方法を考え、2030年までに達成すべき具体的な目標を立てた。それが「**持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)**」である。

SDGsは、「持続可能な世界」を実現するための、いわばナビのようなものである。人類はいま、そのナビが示す方向に進めているだろうか？ そして、君自身はどうだろうか？

様々な社会の課題とSDGsとのつながりを知り、「持続可能な世界を築くためには、何をしたらいいのか。また、将来自分はどのように目標達成に貢献できるだろうか。」それを考えることが、2030年の世界で主役となって活躍している君たちに課せられたミッションである。

さあ、持続可能な世界を創るために、
一歩を踏み出そう！

SDGs
とは？

- ◆ 2015年に国連で採択された「2030年までの達成をめざす17の目標」
- ◆ 国際機関、政府、企業、学術機関、市民社会、子どもも含めた全ての人が、それぞれの立場から目標達成のために行動することが求められている
- ◆ キーワードは「誰ひとり取り残さない」



年 組

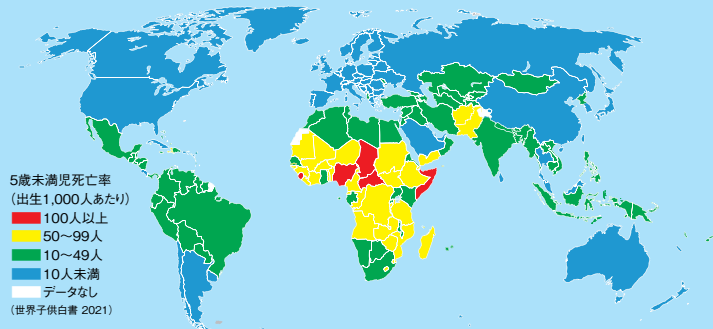


unicef

生まれる環境は選ぶことができない。世界にはどのような不平等があるのか見てみよう。

5歳になる前に亡くなる子どもが多い国 赤色 黄色 はどのような国でしょう？

年間520万人の子どもたちが5歳の誕生日を迎える前に亡くなっています。^{*1} 約6秒に1人、世界のどこかで幼い命が失われているのです。



極度の貧困状態の下で暮らしている7億1,000万人のうち、子どもは3億5,600万人。^{*3} 新型コロナウイルスによる経済悪化の影響で、貧困に苦しむ人が増える可能性が指摘されています。

*国際基準で定められた1日1.9米ドル未満の生活



日本のように安全な水が必要な時に家で利用できない人が20億人。このうち1億2,200万人は池や河川、用水路などの水をそのまま使っています。^{*4}



排泄物を衛生的に処理できるトイレが家にない人は36億人。このうち4億9,400万人が、草むらなど屋外で用を足しています。^{*5}



世界の赤ちゃんとお母さんを守る日本発祥の「母子健康手帳」

日本は、乳児死亡率が世界で一番低い国の一つです。一役買っているのが「母子健康手帳」。妊娠中及び出産時の母子の状態、子どもの成長・健康状況を、継続的に記録するための冊子です。予防接種や健診、成長のようすが一目でわかり、問題があったときにも早く発見し、対処することができます。

日本は政府開発援助(ODA)を活用して20年ほど前から、アジア・アフリカ諸国で母子健康手帳を広める国際協力を進めています。お母さんや家族の保健の知識を向上させ、妊娠婦と乳幼児の健康状態を改善していく。母子健康手帳にはそんな知恵が詰まっています。

生まれる環境は誰も選ぶことができません。自分ではどうしようもないことで、将来の制約を受ける、そんな不平等を克服するための、ひとつの取り組みです。

開発途上国の多くのお母さんと赤ちゃんが直面している問題にかかわるデータ

<産前・産後のケアの不足> 妊娠・出産中の合併症が原因で死亡する女性は、年間約29万5,000人(1日808人)もいます。^{*6}

<栄養不良> 世界の5歳未満児の22%(1億4,920万人)が日常的に栄養を十分に取れず、发育阻害の状態にあります。^{*7} 乳幼児期の栄養の不足は、身体だけでなく知能の発達も遅らせ、その影響は生涯にわたるものとなります。



JICA (国際協力機構) が支援するパレスチナの母子健康手帳

格差や貧困は、途上国だけでなく、日本も含めた先進国の中でも問題になっています。



性別を理由に機会に不平等が起こることがあります。例えば、教育を受けられる女子の割合が男子よりも低い国も多くあります。また、国会議員に占める女性の割合は世界的に低く(日本の衆議院における女性議員比率は9.9%で調査対象190カ国中164位^{*8})、男女が意思決定の過程に積極的に参画し、多様な意思が政治や政策に反映されていくようにすることはとても重要です。日本政府も「2030年代には、誰もが性別を意識することなく活躍でき、指導的地位にある人々の性別に偏りがないような社会となることを目指す」との目標を掲げ、取り組みを進めています。



先進国の子どもたちの状況を子どもに関連の深いSDGsの目標について比較したユニセフの調査によれば、日本は貧困の撲滅については23位(37カ国中)、格差の縮小については32位(41カ国中)でした。^{*9}

先進国の貧困を表すのによく使われる「相対的貧困」と、開発途上国の貧困を表すのによく使われる「絶対的貧困」には、どのような違いがあるかな？



企業の力で社会の課題を解決

医療、安全な水や衛生、十分な栄養など、世界には「生きていく上で最低限必要なものを手に入れられるかどうか」にさえ不平等があります。そうした不平等を、企業が持っている技術力や専門性を生かして克服しようとする取り組みが広がっています。

例えば、貧しい人でもまかなえる価格で設置できるトイレや安価な医薬品の開発と普及、マラリア予防の蚊帳の開発、貧しい地域での浄水・給水事業、乳幼児の栄養改善食の開発など、日本企業も様々な社会課題の解決に取り組んでいます。

携帯電話やドローン、衛星技術など、企業が開発する新しい技術も、こうした課題解決にますます貢献すると期待されています。



マラウイで、HIV/エイズ検査の検体を都市の病院に届けるドローン。ユニセフと企業が協力している。

*1 Levels and Trends in Child Mortality 2020, UNICEF. *2 New Methodology Shows 258 Million Children, Adolescents and Youth Are Out of School, UNESCO, 2019. *3 Global Estimate of Children in Monetary Poverty: An Update, World Bank Group and UNICEF, 2020. *4 Progress on household drinking water and sanitation and hygiene 2000 - 2020, WHO/UNICEF JMP. *5 Trends in maternal mortality: 2000 to 2017: estimates by WHO, UNICEF, UNFPA, World Bank Group and the United Nations Population Division, Geneva: World Health Organization, 2019. *6 Levels and trends in child malnutrition: UNICEF/WHO/The World Bank group joint child malnutrition estimates: key findings of the 2021 edition. *7 女性の政治参画マップ2021(令和3年8月作成), 内閣府男女共同参画局. *8 ユニセフ「レポートカード14 未来を築く先進国の子どもたちと持続可能な開発目標(SDGs)」, 2017.

SDGsは、平和で、暴力や差別のない世界を目指しています。

現在の世界には、どのような問題があるでしょう?



児童労働

1億6,000万人の子どもが働かされています。^{*1}新型コロナウイルスの影響下で、児童労働に従事する子どもの人数は過去20年で初めて増加に転じました。



© UNICEF/UN067752/Sakhin



児童婚

15歳未満で結婚した女性が世界に推定2億5,000万人います。^{*2}妊娠・出産のリスクが高まるほか、教育機会が奪われることなどにより将来や次世代にも影響が及びます。新型コロナウイルスの影響で児童婚が増える可能性が指摘されています。^{*3}



私たちの日常にある子どもへの暴力

虐待 2~4歳児の約4分の3が、家庭内で体罰や精神的虐待を受けているとの調査結果があります。^{*4}日本でも、子どもが虐待や体罰を受ける事件が起きています。

ネットの危険 インターネットは差別的な書き込みやいじめの場にもなります。日本では、年間約1,800人の子どもがSNSを通じて性犯罪等の事件に巻き込まれています。^{*5}

いじめ 13~15歳の子どもの約3人に1人がいじめを経験しているとの調査結果があります。^{*6}



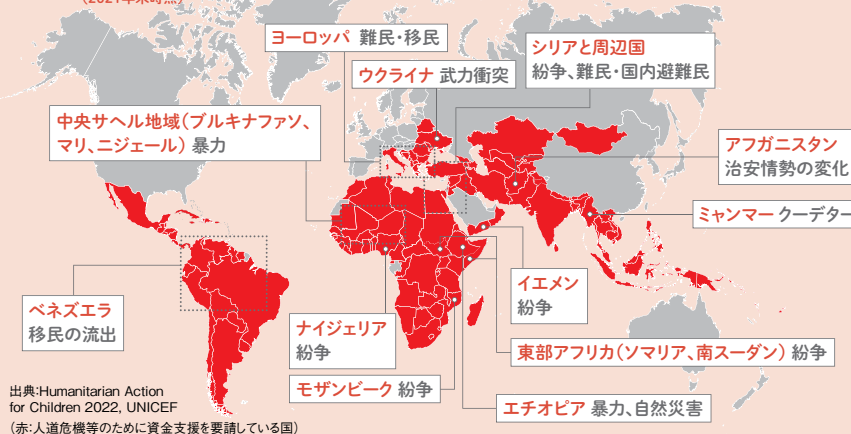
世界の紛争と子どもたち

暮らし 子どもたちは恐怖にさらされ、健康に育つ機会や教育の機会を奪われています。紛争下で小学校に通えていない子どもは約3,250万人にのぼります。^{*7}

巻き込まれる子ども 戦闘員、料理係、スパイ役、メッセンジャーなどとして武力紛争に巻き込まれている子どもは、世界で数万人いると推定されています。

移動する子ども(移民・難民) 2021年、故郷を離れ移動せざるをえなくなった推定8,940万人のうち、42%(3,730万人)は子どもでした。うち1,000万人の子どもは国外に逃れ難民となりました。子どもだけで国境を越える例もあり、人身売買や暴力、遭難など多くの危険がともないます。^{*8}

世界の人道危機 (2021年末時点)



様々な差別

世界には、性別、障がい、人種、民族、社会的立場、宗教など様々な理由で差別される人々がいます。差別は暴力にもつながりやすく、差別をなくすため、条約や法律などが作られ、取り組みが進められています。児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)は、どのような理由でも子どもは差別されないことを定めています。

日本でも、差別をなくすために...

外国人への差別とも受け取れる応援が問題となったサッカーチームは、「差別撲滅」を宣言し、チームとサポーターが協力して取り組んでいます。



難民の少女、自ら親たちを説得

2013年、紛争中のシリアから家族とともにヨルダンに逃れたマズーン・メレハンさん。「教育こそが人生の鍵だと分かっていたので、国を出る時に持っていた唯一の荷物は、教科書でした」難民キャンプで暮らし、シリア難民の子どもたちが児童婚や児童労働を強いられるのを見て、キャンプ内のテントを訪ね歩き、子どもを学校に通い続けさせるよう親たちを説得しました。2017年、19歳でユニセフの最も若い親善大使に任命され、紛争下の特に女子の教育の重要性を訴え続けています。



© UNICEF/UN060339/Sakhin



平和と安全・安心な社会の実現

日本は、世界各地で、①社会資本の復興、②経済活動の復興、③政府の統治機能の回復、④治安強化を柱に平和構築を支援しています。例えば、40年近く紛争が続いたフィリピン南部のミンダナオ島では、和平交渉プロセスに貢献し、和平合意後は、新たな自治政府の体制づくり、人々の生活の向上、中長期の地域開発を支援しています。

イノベーションで子どもの課題を解決

世界では5歳未満の約4人に1人が、出生登録されていません。^{*9}出生登録がないと、保健サービスや教育が受けられないことや、児童労働につながることもあります(なお、日本では無戸籍の子どもであっても、様々な支援が行われています)。2016年、ユニセフはタンザニア政府と、スマートフォンを使った出生登録を試験的に開始。対象の2州において10.3%だった登録率が95%以上にまで伸びました。^{*10}



スマートフォンなどを活用した出生登録は他の国でも試されています。(写真はウガンダ)



© UNICEF/UNI145732/Eslebo

^{*1} Child Labour: Global estimates 2020, trends and the road forward, ILO ^{*2} Ending Child Marriage: Progress and prospects, 2014, UNICEF ^{*3} COVID-19: A threat to progress against child marriage, 2021 ^{*4} 4.6 A Familiar Face: Violence in the lives of children and adolescents, 2017, UNICEF (それぞれ94カ国と149カ国のデータ。どちらも日本は含まれていません。) ^{*5} 令和3年における少年非行、児童虐待及び子供の性被害の状況、警察庁 ^{*6} Children out of school, primary - Fragile and conflict affected situations, UNESCO Institute for Statistics, Data as of September 2021 ^{*7} Education, Children on the move and Inclusion in Education, UNICEF, February 2022 ^{*8} 世界子供白書2021, UNICEF ^{*9} 10 unicef news vol.254 (summer 2017) P.10

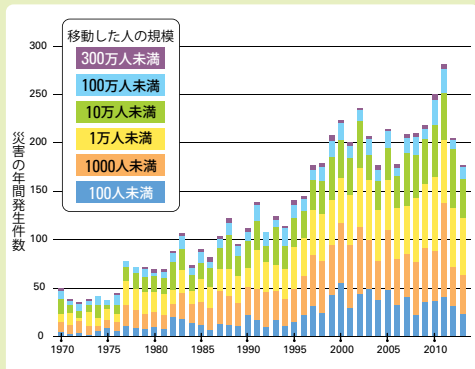
13 地球環境を守ろう！

目標



今地球上で起こっている気候変動や環境問題。どのような課題と結び付いているでしょう？

住民の移動を余儀なくさせる災害の年間発生件数(1970～2013)



グラフ: Unless we act now: The impact of climate change on children, UNICEF, The Internal Displacement Monitoring Centre (IDMC), Disaster-related displacement risk: measuring the risk and addressing its drivers, 2015



頻発する干ばつ、砂漠化、スーパー台風、豪雨など、増加している災害は、やむなく移動を強いられる人、食糧危機にさらされる人が増える原因にもなっています。

人口増加、製造業、水力発電、生活用水への水需要の増加、気候変動による利用可能な水資源量の変化などにより**深刻な水不足**が起きています。水資源の取り合いが**紛争**に結び付く危険もあります。

特に途上国の都市部で深刻な**大気汚染**が発生しています。

原子力発電には温室効果ガスを排出しない利点がある一方で、**放射性廃棄物の処分**という課題があります。

大気中の**温室効果ガス**が増え続けています。温暖化による海面上昇が島嶼国や沿岸部に大きな影響を与えています。また、感染症を媒介する生物の生息域が広がり、例えば、**マラリア、デング熱、ジカ熱**など、蚊が媒介する病気の感染地域が広がることも懸念されています。

プランテーションや土地の開発のために、**熱帯雨林や森林が伐採**され、動植物が**絶滅**したり、生物多様性が失われたりしています。

日本のBOSAI(防災)を世界で役立てる災害に備え、復興する力を

自然災害の被害を減らすための備えと、被害から少しでも早く復興する力が世界で注目されています。

災害が多く、長年防災に取り組んでいる日本には、様々な技術や仕組み、経験があります。これらを世界の自然災害被害の減少に役立ていくために防災に関する国際協力が活発に行われています。これまで3回の国連防災世界会議が横浜・神戸・仙台で開催されるなど、世界の防災力強化のために日本は多くの貢献をしています。

福島県相馬市では、2011年の震災の経験を子どもたちが「生きる力」を学ぶ機会として活用しようと「ふるさと相馬子ども復興会議」を開きました。子どもたちがふるさとの今と未来を考えて学習、将来の災害の可能性を知り、ふるさとの備えの有効性を検証しています。仙台で開催された国連防災世界会議のパブリックフォーラムでは、相馬市立飯豊小学校の6年生がその取り組みを発表しました。



「海洋」の恵みは何とつながっている？

地表の7割を占める海。津波や台風など大きな災害をもたらすこともありますが、日々の食事に欠かせない海産物を供給するだけではなく、豊かな生態系や海水温が気候の安定に大きな役割を果たしていることも分かっています。

近年、大量のごみや汚染物質の海への流出、資源の乱獲、海洋酸性化、サンゴ礁やマングローブ林の減少、海水温の上昇など、海洋は危機的な問題に直面しています。人類共通の財産である海洋の豊かさを守り利用することは、SDGsの17個の目標のどれとつながっているか考えてみましょう。

政府・企業の連携で環境にやさしい持続可能な社会を作る

二酸化炭素など温室効果ガスを削減するための国際的な枠組み(パリ協定)ができました。日本も参加し、政府は、環境にやさしい暮らしを後押しし、太陽光など再生可能エネルギーの利用を進める仕組みを作り、また、企業を中心に省エネ技術や環境保護技術の開発も進んでいます。

製品の生産や流通の過程で生まれる廃棄物や二酸化炭素、使用するエネルギーや資源の量を減らし、環境への負荷を少なくするために積極的に取り組み、SDGs達成への貢献を掲げる企業も増えています。関心のある企業のホームページを見て、どのような取り組みがあるか、調べてみましょう。

このマークはどんな意味？

買い物の時など、こんなマークのついた商品を見たことがありますか？それぞれどのような商品であることを示しているか調べてみましょう。



パーム油をめぐる話

アブラヤシから採れるパーム油。菓子など様々な加工食品や洗剤に使われています。原材料に「植物油脂」と表示され気づきにくいのですが、私たちはこの便利な油を日々摂取しています。同時にパーム油の生産のために広大な熱帯雨林が伐採されていることもあまり知られていません。アブラヤシの栽培に適した赤道下のマレーシアやインドネシアの熱帯雨林には、ゾウやオランウータンをはじめ多種多様な動植物が生きています。熱帯雨林は、パーム油生産のため広大なアブラヤシのプランテーションに変わり、動植物は生きる場を奪われ、多様性は失われています。問題の解決に向けて、パーム油の生産者に加え、油を売り、買う企業やNGOなどが一緒になって、持続可能な形でパーム油を使えるようにするための取り組みが2000年代に入って活発になっています。私たちはどのようなものを食べ、使っているのか、調べてみましょう。



名前

のミッション！

「持続可能な世界にしていけるために、これから何をするのかを考えよう。」

ミッションの達成をめざして ① ～ ④ のステージに取り組もう。

STAGE
1

SDGsの目標は以下の17項目。これまでに学習したことを思い出しなが、優先的に取り組んでいきたいと思う目標を、1～3まで順位をつけてみよう。また、その理由も書いてみよう。

	目 標	順 位	理 由
1	あらゆる場所のあらゆる形態の 貧困 を終わらせよう		
2	飢餓 を終わらせ、全ての人が一年を通して 栄養 のある十分な食料を確保できるようにし、持続可能な農業を促進しよう		
3	あらゆる年齢の全ての人々の 健康的 な生活を確保し、 福祉 を促進しよう		
4	全ての人が受けられる公正で質の高い 教育 の完全普及を達成し、生涯にわたって学習できる機会を増やそう		
5	男女平等 を達成し、全ての女性及び女兒の能力の可能性を伸ばそう		
6	全ての人が安全な 水とトイレ を利用できるように衛生環境を改善し、ずっと管理していけるようにしよう		
7	全ての人が、安くて安定した持続可能な近代的 エネルギー を利用できるようにしよう		
8	誰も取り残さないで持続可能な 経済成長 を促進し、全ての人が生産的で働きがいのある 人間らしい仕事 に就くことができるようにしよう		
9	災害に強いインフラ を作り、持続可能な形で産業を発展させ イノベーション を推進していこう		
10	国内及び国家間の 不平等 を見直そう		
11	安全で災害に強く、持続可能な 都市及び居住環境 を実現しよう		
12	持続可能な方法で 生産 し、 消費 する取り組みを進めていこう		
13	気候変動 及びその影響を軽減するための緊急対策を講じよう		
14	持続可能な開発のために 海洋資源 を保全し、持続可能な形で利用しよう		
15	陸上の生態系 や森林の保護・回復と持続可能な利用を推進し、砂漠化と土地の劣化に対処し、生物多様性の損失を阻止しよう		
16	持続可能な開発のための 平和的 で誰も置き去りにしない社会を促進し、全ての人が 法や制度 で守られる社会を構築しよう		
17	目標の達成のために必要な手段を強化し、持続可能な開発にむけて 世界のみんな で協力しよう		

※ここに掲載されている17個の目標は、外務省の仮訳を参考に、教材のためにわかりやすく意識したものです。

STAGE
2

班やクラスの仲間とそれぞれが選んだ目標や、その目標を選んだ理由を話し合ってみよう。

これからの社会を、持続可能でよりよいものとするためにはどうしたらよいだろう。
話し合った内容をもとに、これから解決策を考えたいと思った目標や課題を書き出してみよう。

取り組んでいきたい目標や課題

取り組んでいきたい目標や課題についてレポートを作成してみよう!

設定した課題や目標について、さらに詳しく調べて、自分の考えをレポートにまとめてみよう。
レポートの最後には、課題の解決や目標の達成に向けた「行動宣言」を書いてみよう。課題を考
えるときは「自分で解決できること／他の人や社会全体と協力して解決できること」「地域の課題／
世界の課題」、解決策を考えるときは「今できること／将来取り組みたいこと」など、様々な視点
から考えてみよう。まとめた後に、発表や、意見交換をすることでさらに考えを深めていこう。



「人のためになるようなテクノロジーの仕事に就きたい!」

エリフ・ビルギンさん(16歳 トルコ)

2年間かけて、本来なら廃棄されるだけのバナナの皮から環境にやさしいバイオ・プラスチックを開発しました。



「規格外の野菜で作った国産飼料で、純国産の豚肉を生産!」

北海道美幌高等学校 生産環境科学科

町の特産品の野菜(じゃがいも、カボチャ、にんじん)の中で、規格外として廃棄される野菜で豚の飼料を開発。国産飼料で育てられたブランド豚の生産、商品開発に取り組みました。また、豚のふんを堆肥にし、特産品の栽培に活用。循環型養豚経営を構築しました。



「目が不自由な人がかけている眼鏡をもっと役立つものにしたい!」

アナンさん(中学生 インド)

目の不自由な人が周囲の状況が分かるよう、超音波を使って周囲を感知できる機能の付いた眼鏡を発明しました。廃棄された携帯電話の部品などを使って作られたこの眼鏡、大学の先生とも協力して更に改良が進められています。



「子どもたちにとってよりよい世界をつくりたい!」

イングリッドさん(14歳 ブラジル)

ブラジルに来る難民の子どもたちにおもちゃや本を寄付する活動を通して、難民の子どもたちの生きる権利や遊ぶ権利を守ろうとしています。イングリッドさんはSNSを使ってこうした活動を伝え、社会を変えたい仲間とつながっています。



「島の美しい自然を守るためにレジ袋をやめよう!」

ムラティ(10歳)・イザベル(12歳)姉妹(インドネシア)

2018年までにバリでのレジ袋使用を廃止するよう市長に約束してもらうために、請願書の作成、ビーチの清掃活動などを実施、彼女たちの願いが受け入れられました。



世界には、世界を変えようと
一歩を踏み出した仲間たちが
たくさんいるよ。どんなこと
をしているのか見てみよう!



行動宣言:2030年にむかって、君たちがしていきたいこと。

行動宣言

この行動宣言はSDGsの
どの目標につながっているだろう。
アイコンに○をつけてみよう。



自分の行動宣言を
送ってみよう!
みんなの行動宣言
も見られるよ。



<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>

発展

それぞれの行動宣言を発表しあおう!そして、さらに深く話し合ってみよう!

「持続可能な開発目標(SDGs)に関する副教材作成のための協力者会議」

及川 幸彦 奈良国立大学機構・奈良教育大学准教授
久木田 純 関西学院大学SGU招聘客員教授(元UNICEFカザフスタン事務所代表)
内藤 徹 前国際協力機構(JICA)広報部地球ひろば推進課長

大谷 美紀子 弁護士 国連子どもの権利委員会委員長
竹原 真 前全国中学校社会科教育研究会会長
早水 研 日本ユニセフ協会専務理事

甲木 浩太郎 元外務省国際協力局地球規模課題総括課長
田中 治彦 上智大学名誉教授
樋口 雅夫 元文部科学省初等中等教育局教育課程教科調室長

「持続可能な開発目標(SDGs)に関する副教材作成のための作業部会」(座長 竹原 真)

金城 和秀 東京学芸大学附属世田谷中学校(都中社研 公民専門委員) 中野 英水 板橋区立台中学校 副校長(都中社研 事務局長)

※敬称略。五十音順。

事務局:公益財団法人 日本ユニセフ協会 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス ☎ 03-5789-2014

発行:2018年9月 第5版発行:2022年4月
© 日本ユニセフ協会



リソナグループ

本副教材は、リソナグループからの支援により印刷・配布されています



SDGs 副教材『私たちがつくる持続可能な世界～SDGs をナビにして～』 アンケートにご協力ください

教材の活用状況の把握、および、今後の教材制作・改善のため、教材をご活用くださった先生方に
あたたかいお力添えを賜りましたら大変ありがたく存じます。何卒よろしくお願いいたします。

問1 この教材を活用した対象・教科等 (複数回答可)
<input type="checkbox"/> 中学3年社会科：単元() <input type="checkbox"/> その他の教科・学年：教科・単元() 学年() <input type="checkbox"/> 上記以外の教育活動：活動内容()
問2 授業や活動の流れのなかで、本教材をどのように活用されましたか？ また、教材を使用した目的をお知らせください。
問3 教材の使いやすかった点、使いにくかった点をお知らせください
使いやすかった点： 使いにくかった点（改善ポイント）：
問4 教材以外に使用されたものがあればお知らせください（複数回答可）
<input type="checkbox"/> 副教材ポータルサイト <input type="checkbox"/> SDGs CLUB <input type="checkbox"/> 映像(タイトル：) <input type="checkbox"/> 指導用参考資料 <input type="checkbox"/> 外務省ホームページ <input type="checkbox"/> 日本ユニセフ協会ホームページ <input type="checkbox"/> その他()
問5 生徒の皆さんの行動宣言の例（多かったもの、ユニークだったもの等）、および、 教材を活用して得られた学び、ご感想、ご意見等、お知らせください。

ご協力ありがとうございました。

(差し支えない範囲でお知らせください)

学校名： _____ (_____ 都・道・府・県)

教諭名： _____ 教科およびご担当： _____

=====
送信先：(公財) 日本ユニセフ協会 学校事業部

FAX : 03-5789-2034

子ども向けSDGsウェブサイト **SDGs CLUB**

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>

SDGs CLUB の特長

- ◆ 17 個の目標のもとにある 169 のターゲットの「子ども訳」を掲載
- ◆ それぞれの目標ごとに、関連する課題を学べる動画やグラフを掲載
- ◆ SDGs とは何か、うまれてきた背景や歴史、めざす世界像も学べる
- ◆ 自身の行動宣言を投稿したり、ほかの人の行動宣言を読んだりできる

スマホ・タブレットから
どうぞ！



SDGs 副教材ポータルサイトに接続！

SDGs 副教材『私たちがつくる持続可能な世界』ポータルサイトには、副教材に掲載されている情報の出典や、映像教材、外務省、JICA などの関連サイトへのリンクがあり、生徒のみなさんの調べ学習に最適です。あわせてご活用ください！

英語版もあります。

副教材のダウンロード
ができます。

ポータルサイト内では、副教材①～③ページに記載されている数値・情報の出典がリンクされており、最新の数値・情報の確認ができます。

先生用の「指導用参考資料」やワークシートのダウンロードができます。



ユニセフセミナーシリーズ 申し込み受付中！

教員の皆さまを対象にしたユニセフセミナーを、今年もオンラインで開催（6月～8月）いたします。SDGs や子どもの権利条約をテーマにした、全4回のセミナーについて、お申し込みを受付中です。ご興味のある回に、全国からお気軽にご参加ください！



※ 本件に関するお問い合わせは、下記、事務局までご連絡ください。

(公財)日本ユニセフ協会 学校事業部

TEL:03-5789-2014/FAX:03-5789-2034/E メール:se-jcu@unicef.or.jp